

木質構造運営委員会 CLT 構造設計資料作成小委員会 拡大委員会 開催のご案内

1. 日時・場所

2015年9月5日(土)15:30~17:30

東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市北金目4-1-1)14号館407教室

2. 趣旨

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が2010年10月に施行され、低層建築物については原則として木質構造により建築することとなりました。公共建築物の木造化の推進には、大規模木造建築物の構法、構造設計法を一般化していく必要がありますが、大規模木造建築物を可能にするための一つの構法として、クロス・ラミネイテッド・ティンバー(Cross-Laminated-Timber:CLT)のパネルを使用した壁式構造(CLT構法)があります。

CLT構法は、ヨーロッパで発祥した構法で、木材の挽き板を直交して積層接着した厚型パネルを躯体として使用するものですが、躯体の施工時間が短い構法であるため、大規模木造建築物の有効な構造方法として普及促進のための一般化が国内外から求められているものです。しかし、地震の多いわが国に適用するためには、耐震性能を十分に確保することが必要です。

これに対して、国土交通省や農林水産省などを中心に法令整備等が進められておりますが、一方でその技術的・学術的な背景・根拠を知り、これを設計や研究活動に活用していくことが重要です。そこで、当CLT構造設計資料作成小委員会では、材料や接合耐力の算出方法、耐力壁など部材の耐力設計法、構造のモデル化の方法、並びに構造設計事例等について検討を進めております。これらの検討の途中経過を報告すべく、拡大委員会を開催し、広く皆さんの意見を拝聴し、最終的に必要な情報の取り纏めに資するディスカッションを行いたいと考えております。

多くの方のご参加と闊達なディスカッションをご期待申し上げます。

3. プログラム(司会:榎本幹事・建築研究所)

1. 趣旨説明(安村主査・静岡大学)
2. 材料特性(宮武委員・森林総合研究所)
3. 接合部の設計(小林委員・静岡大学助教/鈴木委員・木構造振興(株))
4. 水平力に対する鉛直構面の構造性能(岡部委員・(一財)ベターリビング)
5. モデル化の手法(三宅幹事・(株)日本システム設計)
6. 構造設計例の紹介(木林委員・(一財)日本建築センター)
7. ディスカッションとまとめ(榎本幹事・前掲)

4. 資料

資料を配布、頒布する予定はございませんが、当学会木質構造運営委員会のホームページ(<http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s35/>)からダウンロードできるようにする予定です。